

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00685

研究課題名 (和文) 植民地朝鮮における日本語教育～計量言語学的手法から見る学校教育と社会教育との連携

研究課題名 (英文) Japanese Language Education in Colonial Korea: Linkage between School Education and Social Education from a Quantitative Linguistic Method

研究代表者

上田 崇仁 (UEDA, Takahito)

南山大学・人文学部・教授

研究者番号：90326421

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要 (和文) : 本研究では、植民地朝鮮における初等教育機関で日本語を「国語」として教育するために使用された教科書と、社会教育、一般に販売されていた日本語学習書、ラジオ講座のテキスト、新聞連載の「国語」講座の内容について資料を収集し分析することを目的として研究を進めた。

初等教育機関で使用されていた教科書については、教科書の本文をデータ化することを終え、テキストマイニングにより、その特徴を論文として公開している。一般に販売されていた日本語学習書については、韓国にわたって図書館を回ることが実質上困難であったことから、収集していた3種類のテキストを使い、その内容をテキストマイニングにより違いを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

植民地朝鮮における「国語」としての日本語教材は、時期により、また、学習者の年齢により、教科書に掲載されている内容が異なることが明らかにできた。つまり、学校教育と、新聞、ラジオ講座では様相がかなり違うということである。また、生活に密着しているものから政治的な内容に至るものなど、「日本語」を教育するという単純なものではなく、日本語を使って何をさせたいのか、ということが明確にうかがえる教材が存在することが明らかになった。

ただ、それに対応するのに十分な語学教育のための知見が少なかったためか、試行錯誤が繰り返されていたことが、新聞連載講座では顕著にみられた。

研究成果の概要 (英文) : The purpose of this study was to collect and analyze data on textbooks used for teaching Japanese as a "national language" in primary educational institutions in colonial Korea, and on the contents of Japanese language study books, radio course texts, and serial newspaper "national language" courses that were sold to the general public for social education, here.

For textbooks that were used in elementary educational institutions, we have finished converting the text of the textbooks into data, and have published a paper on the characteristics of the textbooks through text mining. For Japanese language study books that were sold to the general public, since it was practically difficult to visit libraries across Korea, we used the three types of texts we had collected and clarified the differences in their contents through text mining.

研究分野：日本語教育史

キーワード：植民地朝鮮 学校教育 ラジオ講座 新聞連載 「国語」としての日本語教育

1. 研究開始当初の背景

本「植民地朝鮮における日本語教育～計量言語学的手法から見る学校教育と社会教育との連携」に関する研究は、従来、学校教育では教材の内容に対する分析を扱った研究が多くみられる一方、ラジオ講座に関する研究はなく、新聞連載に関する研究も見当たらない状況であった。

2. 研究の目的

本研究では、植民地朝鮮における「国語」としての日本語教育について、学習者の異なりが教材の異なりにどのように反映しているのか、を、年齢、立場、時期、などから明らかにしていこうと考えた。これを明らかにすることにより、日本語教育が単なる「強制的」に行われたのではなく、学習者によって教育内容を変えていた柔軟性のあるものであったことを示すことができるのではなかろうか。

3. 研究の方法

対象とする教材、教科書のすべてをデジタルデータ化し、テキストマイニングの手法で内容を比較する。

4. 研究成果

(1) まず、民間で販売されていた「国語」教材三種を取り上げた。『国語教本』『一日一語』『国語の本』である。

本文をすべて入力したうえで、テキストマイニングの手法で三種全体の対応分析図を描いたのが次の図1である。それぞれの教材の特徴が使用され方が語彙の種類によってきれいに3つに分かれているのがわかるだろう。

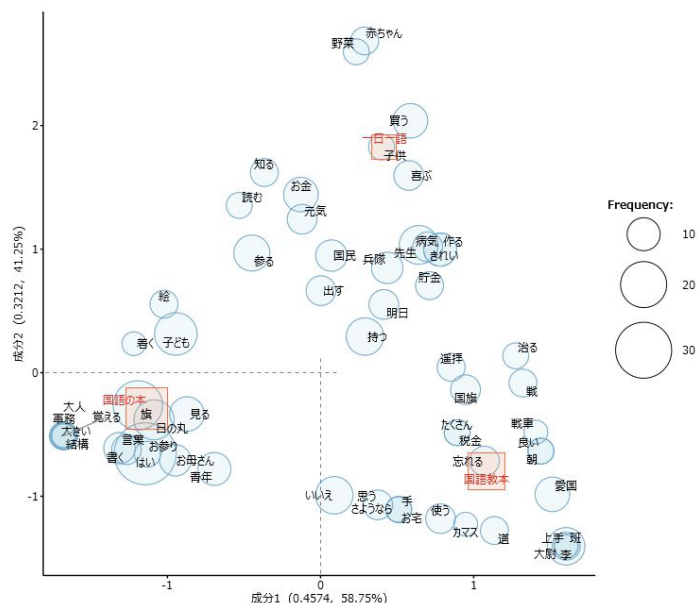


図 1

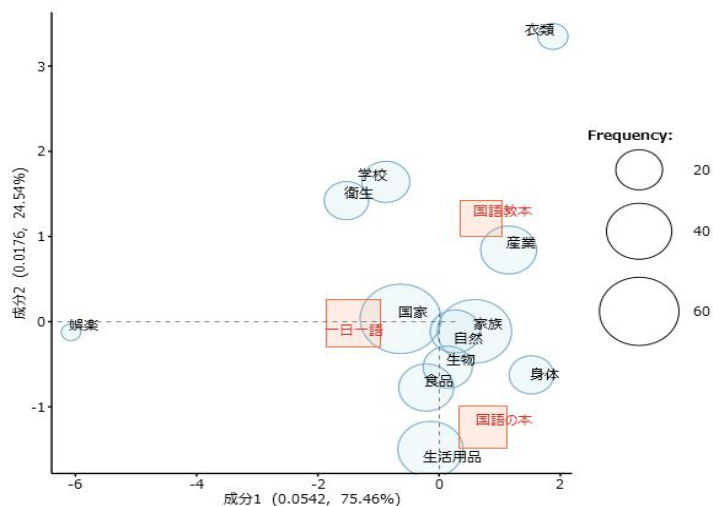


図 2

に分かれているのがわかるだろう。これまでの研究では、軍事的な語彙が多いとか、そういった単純な数値による違いを示すにすぎなかったが、こうすると、どのような語彙が多く使用されているのか、ということにより視覚的に明確に把握することができる。

「軍事的な」という語彙のカテゴリ化をしたうえでの比較も試みた。図2がそれにあたるが、このコーディングの作業が非常に困難であることが研究を進めていく過程で明らかになった。

その理由は、学校教育と社会教育との間で共通のコーディングルールを決めるには、語彙の偏りが大きいということであった。

つまり、これらは社会教育ということで切り取れるが、学校教育で使用された教材である場合、軍事的な語彙は低学年では非常に少なく、身近な日常会話に終始する一方で、高学年になると、軍事的な語彙が増えるという中、このコーディング作業をしてしまうと、低学年では教えている語彙のバラエティが極めて限定されているということである。

ただ、それは新たな発見でもあった。学習者によって教育される内容、与えられる語彙が大きく異なるということをも前提



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 3件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 上田崇仁	4. 巻 23
2. 論文標題 植民地朝鮮における学校外の「国語」教育～『国語教本』『一日一語国語普及読本』『国語の本』の三種に焦点を当てて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 南山大学日本文化学科論集	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上田崇仁	4. 巻 5
2. 論文標題 『日語』と『国語』のはざま 旧韓末『日語読本』が併合後『国語読本』に改訂されたとき、『国語補充教材』は何を教えたのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 南山大学外国人留学生別科紀要	6. 最初と最後の頁 19-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上田崇仁	4. 巻 1
2. 論文標題 植民地朝鮮で「国語」は何を教えたのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東アジア文化研究	6. 最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田崇仁	4. 巻 21
2. 論文標題 研究ノート 旧韓末『日語読本』考	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南山大学日本文化学科 論集	6. 最初と最後の頁 23-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 上田崇仁	4. 巻 4
2. 論文標題 『日語読本』の特徴	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新世紀人文学論究	6. 最初と最後の頁 191-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田崇仁	4. 巻 20
2. 論文標題 旧韓末『日語読本』考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南山大学日本文化学科論集	6. 最初と最後の頁 61-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上田崇仁	4. 巻 3
2. 論文標題 朝鮮総督府編纂教科書の通時的研究—違いを視覚化する試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新世紀人文学論究	6. 最初と最後の頁 85-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田崇仁	4. 巻 24
2. 論文標題 1940年代『毎日新報』連載の「国語」学習教材-「日常会話」について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 南山大学日本文化学科論集	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上田崇仁	4. 巻 別巻
2. 論文標題 マスメディアの中の日本語教育－ラジオ放送と新聞連載講座	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 植民地朝鮮のラジオ放送	6. 最初と最後の頁 135-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕 計2件 (うち招待講演 2件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 上田崇仁
2. 発表標題 植民地朝鮮における「国語読本」の計量言語学的研究の試み
3. 学会等名 第一回山東大学多元文化研究と文化教育に関する国際シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 上田崇仁
2. 発表標題 朝鮮総督府編纂教科書の通時的研究-違いを視覚化する試み
3. 学会等名 戦時日本語教育史研究会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

AWA@TELLまいにち  
<https://koyangyi.wixsite.com/uedalabo>

Youtube 【日本語教育史事始め】

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------